



窓を優美に彩る絣(しけ)絹が、 富山プロダクツに認定

430年前から絹織物が盛んな南砺市城端地区で、明治10年(1877)に創業した「松井機業」。135年にわたって絣(しけ)絹織物を織り続けている会社は、県内でここだけである。

2頭の蚕が1つの繭(玉繭)を作ることが稀にある。その玉繭で創る糸で織った絹織物を「絣絹」といい、白く点々とした太い節と独特の質感が特徴だ。しかも、松井機業では、糸が織れる準備「糸繰り」、熟練の女工さんによる「織り」、染色まで全行程を一貫生産している。このような昔ながらの製法で作っているところは、全国的にもかなり珍しい。

かつて、絣絹はふすま紙に使われていた。しかし、近年は和室のない家の増加に伴い、襖の需要が減少してきたため、松井機業では絣絹をシェードに用いることを考案。絹は直射日光に弱いので、特殊技術を用いて紫外線対策や強度を高めたことで窓に用いることを可能にしたのが、「SHIKE SILK SHADE」だ。絹の

優美な光沢を通して、やわらかい自然光を室内に届けてくれるのが魅力である。

10月には富山プロダクツ選定商品として認定された。5代目の松井文一さんは「ブランド価値が高まるといいですね」と期待を寄せている。現在は、絣絹を使った小物やインテリアづくりにも余念がない。長い伝統と熟練の技術、斬新なアイデアで、絣絹の可能性を追求し続ける松井機業。どんな新商品が生まれるのか楽しみだ。

<http://www.shikesilk.com/>

TEL0763-62-1230

